

お宝再発見 「瀬戸町」

瀬戸町の宝物を
このマップに詰め込んでいます。
どうぞ瀬戸町へ!

●ビューポイント

瀬戸町こぼれ話

●TOPGUN(トッパン)
IPU・環太平洋大学に世界的建築家・安藤忠雄氏が設計したアスリートホールがあります。



瀬戸町こぼれ話

●千種山
福岡合戦の時、戦死者の血で草が染まり血草山と呼んだのが、千種山になったと伝えられています。



瀬戸町こぼれ話

●吉岡廃寺の礎石
白鳳時代の政治の中心地と考えられる寺の礎石が出土、現在は万富公民館にあります。



瀬戸町こぼれ話

●宗堂水(新田水)
宗堂地区は、田原用水工事で日置池を潰す代わりに一番に田に水を引く利権を得たと伝えられ、約300年前の取り決めが現在も守られています。

瀬戸町こぼれ話

●大井村踊り
江戸時代、百姓の宝である牛の疫病が流行したので、牛の病気を撲滅と地元の安泰を願う踊りを牛神様へ奉納したのが始まりと伝えられ、8月24日の夜に行われています。



瀬戸町こぼれ話

●陣場山遺跡
秀吉が高松城水攻めに行く途中、一時陣を敷いた(そして、徳王寺の鐘を陣鐘として持ち去ったといわれる。)という伝承で陣場山の名の由来があります。古墳時代に棺として利用された円筒埴輪が出土し、石棺が瀬戸旭ヶ丘緑地に復元されています。



瀬戸町こぼれ話

●中河与一文学碑
日本純文学の最高峰といわれた中河与一が、幼年期に学んだ母校(旧大内小学校)の校庭にあった梅檀の木の懐かしさを詠んだ歌碑があります。



二つの駅にまつわるこぼれ話

●瀬戸駅(明治24年設置)
昭和3年、宇野光夫は岡山県唯一の自動車学校を瀬戸駅南の山地に開校しました。県内はもとより、近県、九州、朝鮮方面からも入学者があり、その数は1,000名を超えたそうです。(昭和14年岡山県自動車学校に合併し廃校。)

●万富駅(明治30年設置)
乃木希典大將は旅順行き(日露戦争)の途中、家族が世話になった祈禱所に礼を言うため、軍用列車を万富駅で停めて下車したと伝えられています。

